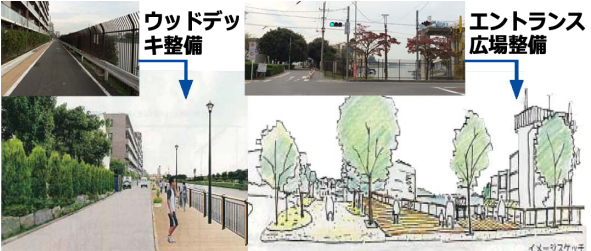


一般質問の報告③(地元問題)
▼県営戸田公園を整備し美しい景観に！



県営戸田公園は、平成18年に策定した埼玉県景観アクションプランの景観モデル地区に選定され、「ポートコース北側道路のウッドデッキ整備」や「エントランス広場の整備」が計画されましたが、8年あまり経過した今も実現には至っておりません。

戸田市では現在、平成28年の市制施行50周年に向けてポートコース南側周辺の整備が検討されております。また戸田漕艇場は、2020年の東京オリンピックにおけるボート競技の選手のキャンプ候補地となる可能性もあることから、この公園一帯を県民・市民が誇れるような「おもてなしの空間」としてさらに魅力ある景観に整備していただきたいとの願いを込めて、都市整備部長に質問いたしました。

菅原の質問 県営戸田公園を利用する県民・市民が更に愛着が持てるよう、そして、また訪れたいと思うような景観となるよう、景観モデル地区推進プランの「ポートコース北側ウッドデッキ」と「エントランス広場」を実現すべきと考えますが、いかがでしょうか。



都市整備部長の答弁 景観モデル地区推進プランは、地元戸田市や住民の方々と連携しながら、公園とポートコースが一体化した美しい景観を作することを目的に策定いたしました。施設整備に当たっては、特にポートコース北側の道路や水辺環境が大幅に変わることから、周辺住民やポートコース利用者との合意形成が課題となり、具体化に至っておりません。このような中、戸田市ではポートコース南側の整備に関する検討を行ったとのことですが、県としては、これを契機として、戸田公園の整備の在り方や役割分担などについて市と共に検討してまいります。



《菅原の一言》
2020年東京パラ五輪も近づき、市のシンボルともいえる県営戸田公園の環境整備のチャンスは「今」です。止まっていた計画を動かすべく、今後も積極的に県に働き掛けて参ります。

▼放射性物質を含む焼却灰の早期処分を！
荒川水循環センターの中に仮置きされている放射性物質を含む焼却灰の早期処分については、平成23年より毎年質問で取り上げてきました。これまでの県の努力により、ピーク時には8,870袋あった焼却灰は、6月19日現在で3,983袋、約2,088トンに半減しました※。しかし、センター内の焼却灰のうち、1キロ当たり8,000ベクレルを超える407袋は丈夫な建屋の自家発棟内に保管されているものの、それ以下の焼却灰は第五、第六系列水処理覆蓋の下に736袋、そして雨ざらしの屋外に2,840袋置かれている状況です。



※10月23日現在2,599袋、約1,365トン

全ての焼却灰が処分されるまでの間、灰が飛散・流出しないよう万全な対策を求め、下水道事業管理者に質問いたしました。

菅原の質問 一刻も早く全ての灰を処分していただきたいが、見通しはいかがでしょうか。また、屋外の焼却灰が風雨にさらされないよう、できるだけ屋根や覆蓋の下に置いていただきたいが、いかがでしょうか。

下水道事業管理者の答弁 保管している放射性物質を含む焼却灰は、産業廃棄物として処分可能なものから順次処分しております。現在の保管量は半減しており、1年後には、1,200袋程度にまで減少する見込みです。屋外に保管している焼却灰については、風雨の影響が少ない覆蓋下へ、順次移動しております。処分が順調に進めば概ね1年後には屋外での焼却灰の保管をすべて解消できる見込みです。今後とも、周辺地域にお住まいの方々にご迷惑がかからないよう、しっかりと管理し、早期の全量処分に取り組んでまいります。



《菅原の一言》
近年の異常気象により、竜巻や局地的豪雨、荒川の洪水なども想定すべき課題となっております。県はそういった事態に対応すべく、焼却灰の飛散・流出を想定した「災害時対応方針案」を定めるなど、地元の要望に沿った努力していただいております。地元の安心・安全を確保するため、今後とも市と県の橋渡し役としてがんばって参ります。



- ▼地元要望の内容(戸田市分)
- ① 国道17号線沿いへの帰宅困難者避難所設置と十分な備蓄による受け入れ体制構築
 - ② こども医療費・ひとり親家庭等医療費・重度心身障害者医療費の各補助率を地方交付税交付団体と同率に引き上げ
 - ③ 大久保浄水場における高度浄水処理施設の導入
 - ④ 戸田公園漕艇場の抜本的な水質改善
 - ⑤ 辺島橋架換工事の早期完了
 - ⑥ 荒川水循環センター上部公園へのアクセス道路設置
 - ⑦ 埼京線の始発時間の繰上げおよび終電時間延長をJR東日本に強く要望すること
 - ⑧ 埼京線の混雑緩和の諸施策をJR東日本に強く要望すること
 - ⑨ 埼京線の戸田公園駅に通勤快速を停車するようJR東日本に強く要望すること
 - ⑩ 埼京線3駅(戸田公園・戸田・北戸田)のホームに可動式ホームドアを設置
 - ⑪ 市内中学校屋上に対空表示ヘリサインを整備
 - ⑫ 荒川水循環センターの放射性物質を含む下水汚泥焼却灰の早期処分
 - ⑬ 笹目川における川のまると再生プロジェクト推進工事の着実な実施
 - ⑭ 県道朝霞蕨線における自転車歩行者道整備の着実な推進
 - ⑮ 上戸田3-7セブンイレブン前交差点(中央通り)に信号を設置
 - ⑯ 南町11-24交差点に押しボタン信号を設置
 - ⑰ 大字新曾427-3戸田駅西口交差点(市役所南通り)へ定期式信号機と歩行者用灯器の増設および右折矢印信号の設置
 - ⑱ ボートコース北側道路ウッドデッキやエントランス広場等の戸田公園内の環境整備
 - ⑲ 消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」施行に伴う、県独自の財政的支援
- ※全ての要望内容についてはHPをご覧ください。

本人の一行日記	
9月(長月)	
1日	第二子出産に立会い
6日	戸田市ソフトボール大会開会式に出席(市内)
8日	事務所にて市民相談の応対(市内)
9日	議会制度関係の調査(県議会)
10日	グランドゴルフ大会開会式に出席(市内)
12日	会派団会議に出席(県議会)
14日	地域敬老祝賀会に出席(市内)
15日	美女木八幡神社祭礼に出席(市内)
16日	産業労働行政関係の調査(県議会)
17日	中原県議と意見交換(吉川市)
18日	新聞記者の取材対応(県議会)
19日	県議会本会議9月定例会開会(県議会)
20日	日本スポーツマスターズ競技団体懇親会に出席(市内)
21日	藤原紀香チャリティー講演会にスタッフ参加(市内)
22日	提出議案の調査(県議会)
24日	提出議案の調査(県議会)
25日	提出議案の調査(県議会)
26日	定数・選挙区検討協議会に出席(県議会)
27日	小学校運動会に参加(市内)
29日	県議会本会議一般質問(県議会)
30日	定数・選挙区検討協議会に出席(県議会)

10月(神無月)	
1日	県議会本会議一般質問(県議会)
2日	県議会本会議一般質問(県議会)
3日	定数・区割り検討協議会に出席(県議会)
4日	シルバースポーツ大会に出席(市内)
5日	地域福祉まつりに参加(市内)
6日	産業労働企業委員会に出席(県議会)
7日	提出議案の調査(県議会)
8日	地方分権・行財政改革特別委員会に出席(県議会)
9日	提出議案の調査(県議会)
10日	県議会本会議9月定例会閉会(県議会)
11日	グランドゴルフ大会開会式に出席(市内)
12日	保育園運動会に出席(市内)
13日	事務所にて市民相談の応対(市内)
15日	地域訪問と市民相談(市内)
16日	埼玉新聞社70周年記念式典に出席(さいたま市)
17日	とどろび青年会議所委員会に参加(市内)
18日	下水道フェスタ2014記念式典に出席(市内)
19日	戸田市市民体育祭に参加(市内)
20日	地域訪問と市民相談(市内)
21日	事務所にて事務作業(市内)
22日	教育行政関係の調査(県議会)
23日	会派団会議に出席(県議会)
25日	戸田市商工祭開会式に出席(市内)
26日	戸田市文化祭開会式に参加(市内)
27日	市内訪問と市民相談(市内)
28日	教育行政関係の調査(県議会)
29日	警察行政関係の調査(県議会)
31日	高校新体操新人戦の開会式に出席(加須市)

編集後記

2015年4月、第18回統一地方選の投票日が決定し、埼玉県議会議員選挙は4月3日(金)告示日、12日(日)投票日となりました。現在の地方自治制度は、1947年の第1回統一地方選挙で全国の自治体の議員と長が一斉に選出されてから始まりましたが、今や統一選で選挙を行なう率は、前回の第17回で27%となっております。その理由は、首長の辞職や死去、議会の解散、市町村合併など様々です。私たちの住む戸田市でも市議選と市長選は統一選以外の時期に行われています。

他方、地方選挙の投票率は著しく低下しており、例えば直近の戸田市長選挙の投票率は31.18%、そして知事選挙は史上最低の24.89を記録するなど、7割の有権者が投票放棄しているというような異常な状況が続いています。そして選挙が別々に執行されると、その度に投票所や掲示板の設置や公報費用など設営経費もかさみます。ちなみに今年行なわれた戸田市長選挙では4,270万円の予算がかかりました。

地方創生が叫ばれています。しかし、住民自らが地域について考え、政治参加しなければ、本当の意味の自律した地方・持続可能な地域社会は訪れないと思います。

その意味で、低すぎる投票率の現状を脱却し、選挙費用を抑えるためにも、私はどこかでもう一度地方選挙の「再統一」をはかり、国民みんなで同時期に自分の住む地域について真剣に考える機会をつくるべきではないかと思っています。任期の問題や地方の自主性をどうするかといった議論もありますが、大事なのは「有権者にとって何が参加しやすいか」という視点です。ここには「わかりやすい争点をつくる」など政治家の側の努力も必要でしょう。

いずれにしても、統一選まであと5か月となりました。任期全うに向け、これまで通りに全力疾走で頑張っ参りますので、叱咤激励のほどよろしくお願い申し上げます！